

このメールがお読みにできない場合は[ブラウザで閲覧してください。](#)



[www.ceraglobal.org](http://www.ceraglobal.org)

[メンバー・ログイン](#) | [連絡先](#)

2016年10月11日

メンバー各位

## CERA ニュースレターへようこそ

このニュースレターでは、第8回エンタープライズリスクマネジメント（ERM）セミナーに関するブレット・ライリーのレポートをお読みにできます。

### ブレット・ライリーのレポート「2016年リスク管理セミナーのレビュー」

9月20日（火）、オーストラリア・アクチュアリー会はリスク管理実務委員会（Risk Management Practice Committee）の支援を受けて第8回エンタープライズリスクマネジメント（ERM）セミナーを開催しました。この会議は同会シドニー事務所のフォーラムで開催され、15名の素晴らしい講演者が参加し、メディアでも大きく取り上げられました。

こちらで記事全文をお読みにできます>>>>（別紙1参照）

### IAJ が SOA の講師を東京に招待

日本アクチュアリー会（IAJ）は米国アクチュアリー会（SOA）から2名の講師を招いて2016年9月に東京で講演会を開催しました。講師は、SOAの教育担当マネージング・ディレクター、ケネス・ガスリー氏と、国際アクチュアリー会（IAA）教育委員会の共同副委員長で国際CERA協会（CGA）のレビューパネル・メンバーでもあるステファン・A・イーディー氏でした。

SOAの代表者の支援を受けたこのイベントを通じて、IAJ会員および東京の外国人アクチュアリーは、特に2日目のレセプションで交流を深めるとともに、SOAにおけるアクチュアリー教育およびCERA資格の発展について情報交換することができました。

記事全文はこちら>>>>（別紙2参照）

ニュース

## AFIR/ERM グループの第 52 回会議がケルンで開催

ドイツ語を話す ERM アクチュアリーおよび CERA を対象とする AFIR/ERM グループの第 52 回会議がドイツ・アクチュアリー会 (DAV) によって企画されています。このイベントは 2016 年 11 月 15 日にケルンで開催されます。欧州の監督制度であるソルベンシー II や現在の低金利期間における資本投資に関わる現実的問題などのトピックスを含む幅広い多様なスピーチが予定されています。

おめでとう！

## 新しい CERA 資格者を心から歓迎！

過去 3 カ月間に資格を取得した 162 名の新 CERA 資格者を心から歓迎します。CERA ウェブサイトで紹介しますのでご覧ください。

### DAV が 13 名の新たな CERA 資格者を歓迎

ドイツ・アクチュアリー会 (Deutsche Aktuarvereinigung e.V. : DAV) は、13 名の新たな CERA 資格者を当会に迎え入れることを喜ばしく思います。これまでに 159 名のドイツのアクチュアリーが CERA 資格を付与されました。現在、さらに 200 名のドイツのアクチュアリーが全国教育プログラムに参加しています。DAV は 160 人目の CERA メンバーを祝福することを楽しみにしています。

次回の CERA 試験は 2016 年 10 月 21 日に実施されます。試験科目はモジュール 3 および 4、場所はケルン、ザグレブ、チューリッヒなど数カ所です。

スイス・アクチュアリー会 (Schweizerische Aktuarvereinigung) は 4 名の新たな CERA 資格者を歓迎します。

### IFoA が 500 人目の CERA を祝福

パメラ・ロバートソン氏 (別紙 3 参照) が権威ある CERA (Chartered Enterprise Risk Actuary) 資格を取得した 500 人目のメンバーとなりました。

CERA ウェブサイト>>>>

## ニュース

### 2015年度エマージングリスク調査

米国損保アクチュアリー会、カナダ・アクチュアリー会および米国アクチュアリー会のジョイントリスクマネジメントセクションは、2015年度エマージングリスク調査の結果を記載したリサーチレポートを提供することを喜ばしく思います。ルドルフ・ファイナンシャル・コンサルティング LLC のマックス・J・ルドルフ氏が執筆したこのレポートには過去の調査との比較が含まれています。

この調査では、いくつかの質問の基礎として、世界経済フォーラムが定義する一連のエマージングリスクを組み入れています。また、最新のリスク管理のトピックに関連する質問も含まれています。

[こちら](#)をクリックすることによりレポートにアクセスできます。

### ソーシャルメディアにおける大規模災害への反応の分析：竜巻に関するツイッターのデータの分析

米国アクチュアリー会は、米国中西部に発生した3個の巨大竜巻に対するソーシャルメディアの反応を調査したリサーチレポートを提供することを喜ばしく思います。この調査では、個々の出来事について、発生の前後24時間を中心とする14日間のツイッターのデータを分析しています。このレポートには、データの分析のほか、出来事の展開に伴うデータ量の推移やデータの送信者の分析結果が記載されています。

[こちら](#)をクリックすることによりレポートにアクセスできます。

### GIRO 2016 における CGA および CERA 資格のプロモーション

3日の間にできるだけ多くの人々を、特別試験を受験し、1日の講習に参加するよう説得する。

不可能に近い任務でしょうか？それは誰に任せるかによります。

教科書を読み、復習ノートを作ると考えただけで冷や汗の出る人もいます。しかし、CGAのスタンドにやってきたGIRO大会の出席者はその大半が、CERA資格がもたらす大きな機会を理解し、チャレンジ性のある教育を楽しんでいたと考えました。

続きはこちらでご覧になれます>>>> (別紙4参照)

## IFoA のコリン・ウィルソン会長が CERA のプロモーション

英国アクチュアリー会 (IFoA) のコリン・ウィルソン会長 (写真) が、シンガポール・アクチュアリー会から 9 月 27 日開催の同会の ERM 会議に招待されました。ウィルソン会長は、政府におけるリスク管理の役割について講演するとともに、アジア地域全体から参加した大勢のアクチュアリーやリスク管理の専門家に CERA 資格の利点を宣伝しました。この分野に対する関心が引き続き拡大していることから、さらに多くの知識や経験を業界間で共有するよう働きかけることにより、リスク管理の重要性が強調され、広く認識されるようになるでしょう。

## CERA 関連の行事予定

10月～12月

近く予定される ERM 関連の行事の情報は下記の通りです。詳細については CERA ウェブサイトをご覧ください。

EAA セミナー：ソルベンシー II の下でのモデル検証

10月17日～18日、ドイツ、ミュンヘン

SOA 年次大会および展示

10月23日～26日、ネバダ州ラスベガス

EAA セミナー：ソルベンシー II の下における技術的準備金の検証 – アクチュアリアルな観点から

10月24日～26日、スロベニア、リュブリャナ

第 20 回アジア・アクチュアリー会議：課題と機会

11月9日～12日、インド

EAA フォーラム：ソルベンシー II の下におけるリスクおよび資本管理に関する経営シミュレーションゲーム

11月14日～16日、プラハ

EAA セミナー：ビッグデータの観点から見た保険統計手法

11月21日～22日、イタリア、ミラノ

このメールは、メールアドレスが CGA のメールリストに登録されている方に送信しています。[メールアドレスは表示していません。]

CGA からお受け取りになっているニュースレターの変更を希望する場合は、[ここをクリックしてください](#)。CGA

2017年3月30日掲載版

が送信するメール形式のニューズレターすべての配信中止を希望する場合は、[ここをクリックしてください。](#)

## 2016年リスク管理セミナーのレビュー

ブレット・ライリー

9月20日(火)、オーストラリア・アクチュアリー会はリスク管理実務委員会(Risk Management Practice Committee)の後援を受けて第8回エンタープライズリスクマネジメント(ERM)セミナーを開催しました。この会議は同会シドニー事務所のフォーラムで開催され、15名の素晴らしい講演者が参加し、メディアでも大きく取り上げられました。ブレット・ライリーが報告します。

このセミナーの目的は次の通りでした。

- ・ 実際的リスク管理のトピックスおよびリスク管理に関連する現在の論点、特にオーストラリアの金融サービスにおける論点を取り上げる。
- ・ リスク管理の最新動向を提示し、リスク管理におけるより難しい論点のいくつかについて議論した上で、出席者が自身の組織でそれらの論点に対処するためのアイデアを提供する。
- ・ オーストラリアのリスク管理者のスキルを向上し、注目度を高めるとともに、人脈作りのための共通の場を提供する。
- ・ リスク管理に関する著名なソートリーダー(thought leader)の見解を聞く。

会員と多くの非会員が集結し、セミナーの出席者は合計88名となりました。多くのセッションが広範な関心を集め、専門的なリスク管理者であるかそれ以外の職務に就いているかにかかわらず、アクチュアリーにとって持ち帰るべき有用な論点が多数ありました。

### 議論された主要なテーマおよび分野

セミナーは様々な分野にわたる広範な関心を集めました。しかしながら、この日はAPRAの規制対象業種に携わっている出席者にとっては特に有益でした。

従来、多くのリスク管理の枠組みは、ガバナンス構造、リスク分析と測定、リスクプロセスとリスク報告など、リスク管理の「ハード」面に重点が置かれていました。これらの分野は十分に確立されており、大半の組織において総じてよく理解されています。

しかしながら、リスク管理の「ソフト」面は往々にして十分ではありませんでした。その一因は、リスク管理の枠組みのソフト的な側面の方が、より対処が難しいことにあります。ソフト面では、リスク文化、行動、人間への影響や心理の理解、交渉、説得、効果的なコミュニケーション手法など、リスク管理の人間的要素が問題となります。健全かつ効果的なリスク管理の枠組みにはこ

うしたトピックスも同様に重要であることから、(規制当局を含め) より多くの注目を集めるようになっていきます。これらの分野は、セミナー全体を通じての主要な焦点となりました。

もう一つ別の主要テーマは、強固なストレステストおよびシナリオ分析方式の有益性でした。この問題は多くのセッションで取り上げられました。APRA をはじめとする規制当局は、シナリオ分析やストレステストの強化を推奨しましたが、企業にとっても、自身のリスクプロファイルをより深く理解し、悪化シナリオについて探求した上でその軽減戦略を策定することにより、大きな商業上の有益性が得られます。

多くの非常勤取締役がセッションの講演者や司会者となり、取締役会が強固なリスク管理プログラムの中で実現を望む事柄に関する自身の見解を示しました。

当日の講演者に関する詳細は下記の通りです。

## 講演者

### 基調講演

基調講演を行ったのは、コモンウェルス銀行の元 CEO、未来基金 (Future Fund) 会長 (2005年~2012年) で、政府が最近設置した金融制度審議会 (Financial System Inquiry) 会長のデビッド・マレイ氏でした。同氏は、オーストラリアの銀行が直面する多くの風評上の問題に触れました。

マレイ氏は、オーストラリアの会社法は取締役に多くの義務を負わせているが、彼の考えとして、経営幹部、特に CEO の説明責任をもっと重視すべきであるとの指摘をしました。また、多くの取締役会が信頼して支援することをしないために銀行を失望させ続けていると指摘しました。最近、銀行全体が風評の問題に直面している状況の背景にはこうした要因があります。

マレイ氏はまた、銀行を政治問題化しないことの重要性を強調しました。そして、王立委員会 (royal commission) による銀行の調査に反対する姿勢を示しました。

### 全体セッション 1

このセッションでは、多数の業種に関係する 2 つの主要なリスクシナリオが取り上げられました。第一に、チャンネル・ナインおよび 2GB のロス・グリーンウッド氏が居住用不動産価格の下落の脅威に触れました。そして、建設の増加、外国人の需要および金利低下による利払いの改善などを含め、最近の需給関係が価格に与える影響について述べました。また、外生的なショック (例えば、金融危機の再発や中国の問題) や内生的なショック (国内の景気後退) が価格下落を引き

起こす可能性について説明しました。同氏は、「バタフライ効果」、すなわち、1つの分野の問題がより広範な問題を引き起こす現象の脅威について触れ、アパート開発がその影響を受ける可能性が最も高いと指摘しました。

次に、AMP キャピタルのサイモン・ウォーナー氏が「経済的混乱」について説明しました。同氏は、低金利、低インフレ、低成長という足元の経済環境の異常性について述べました。また、今後金融システムにおいて発生が予想されるリスク、および人口動態と人口数の影響によりこの環境が継続することの脅威について説明しました。そして、金融危機が再度発生した場合、各国の中央銀行は、経済を支えるのに現在の環境の中では極めて限定的な力しか持っていないことを指摘しました。

## 全体セッション 2

このセッションでは、エマージングリスクを特定する方法が議論されました。最初の講演者、スイス・リーのリチャード・フォード CRO（最高リスク管理責任者）はエマージングリスクを「定量化が困難で、社会と企業に重大な影響を与える可能性のある、新たに増大しつつあるまたは変化しつつあるリスク」と定義しました。最近の事例としては、シェアリングエコノミーやデジタルアイデンティティへの脅威などがあります。フォード氏は、エマージングリスクを特定した後に測定および管理する実際的手法について説明しました。そして、効果的なリスク軽減策としてシナリオプランニングを挙げました。

次に、システミック・コンサルトのニール・アラン氏が複雑系に基づく別の手法について説明しました。複雑系では関連性、依存性およびフィードバックが考慮されます。この手法は進化論を基礎としています。この手法では、エマージングリスクはほぼすべての場合、既知の特性の単純な組み合わせであることが示され、そうした特性が分析の主要な焦点となります。

## 全体セッション 3

アラン・ハドソン氏は、表情やボディランゲージから他人の心理を読み取るスキルについて説明しました。リスク管理者にとって有用なスキルは「嘘発見 (deception detection)」、つまり、正確な情報を告げられていないときにそれを見分ける能力です。出席者は7つの万人共通の表情について学んだ後、休憩に入り、互いに様々な表情を作りながら昼食を取りました。

## 全体セッション 4

このセッションでは、今話題のリスク文化、コンダクトリスクおよび風評が取り上げられました。ブラックホール・アンド・パールのハリー・トゥカラス氏は、リスク文化よりも企業文化全体に焦点を合わせるべきであると述べました。同氏は、文化を局所的に形成されるものとして捉え、



ソーシャルネットワークの分析を通じて文化に対する企業内の強力なインフルエンサー (influencer) を特定することの重要性について説明しました。このインフルエンサーは必ずしも上級経営幹部とは限りません。同氏はリスク文化の測定方法としてデータアナリティクスを紹介し、この点で、その講演はアクチュアリーにとって特に興味深いものでした。

次に、ケイパビリティ・インスティテュートのポール・ギニャール氏が、文化について、組織の目標達成能力を測定するための全体的枠組みと関連付けて説明しました。この枠組みでは、業績の測定や報告が問題となるため、商業的な側面が非常に重視されることになります。

次いで、ヘイゼル・ニコルズ氏が非常勤取締役として上記のソフト的な論点について見解を示し、自身の体験を語りました。

#### 全体セッション 5

このセッションでは、デビッド・ホール氏 (ホラード保険会社 CRO) およびアンソニー・ブラウン氏 (ノーブル・オーク CEO) が実際のリスク管理の枠組みに基づくケーススタディを示しました。損害保険会社と生命保険会社の立場からの見解が示されたため、出席者は2つの異なる手法を知ることができました。これらの講演の主要テーマはリスク管理のソフト面の重要性ということでした。

#### 全体セッション 6

最後に、マシュー・ウィルソン氏 (EML の CRO で熟練した弁護士)、ギャビン・ピアース氏 (icare の CRO でアクチュアリー) およびベン・ガリー氏 (APRA の CRO でエコノミスト) が、優れた CRO の特性について異なる見解を示すとともに、自分たちの経歴が現在の役割に役立っていると考える理由について述べました。パネル・ディスカッションでは、リスク管理者が今後果たすべき役割、およびこの分野における APRA の期待が探求されました。

#### 総括

2016年 ERM セミナーでは、リスクおよびリスク管理に関する多岐にわたる見解が一同に提示されました。そして、企業が現在直面するリスク関連の実践的な課題の多くが検討されました。取り上げられたトピックの多くは簡単に答えが見つかるものではありませんが、参加者は、持ち帰って自組織で適用すべき新たな手法やアイデアをこのセミナーから得られました。

このイベントを成功裏に開催するのを支えていただいた講演者、司会者、オーストラリア・アクチュアリー会および組織委員会の皆様に感謝いたします。

## IAJがCERAに関するイベントを開催

2016年9月、日本アクチュアリー会（IAJ）は米国アクチュアリー会（SOA）の教育関係のマネージング・ディレクターのケネス・ガスリー氏と国際アクチュアリー会（IAA）の教育委員会の共同副議長で国際CERA協会（CGA）のレビューパネルメンバーでもあるステファン・A・イーディー氏を招いて東京で2つの講演をしていただきました。

一つ目は9月1日（木）のIAJの第3回例会での講演で、タイトルは「米国SOAのアクチュアリー資格認定プロセス見直し（Change to the SOA actuarial qualification process）」。

今年6月にSOAの理事会が決定した準会員（ASA）とCERAのカリキュラムの改定について講演いただきました。会場には約250名が参加し、プレディクティブ・アナリティクス（predictive analytics）等に関する質問がありました。

二つ目はその翌日の9月2日（金）、IAJの会議室でCERAに焦点を当てた講義「ERM教育とグローバルなCERA資格（Enterprise Risk Management Education and the Global CERA Credential）」というテーマで講演いただきました。この講義への参加者は約60名でしたが、IAJがIAJの国際関係委員会とCGAの協力を得て、このイベントをよりグローバルなものとするために招待した東京勤務の外国人アクチュアリー15名も含まれました。また、CERAも約10名参加し、ERM教育の現状や今後の方向性について意見交換を行いました。

SOAの代表者の支援を受けたこのイベントを通じて、IAJ会員および東京の外国人アクチュアリーは、特に2日目のレセプションで交流を深めるとともに、SOAにおけるアクチュアリー教育およびCERA資格の発展について情報交換することができました。

# CERA

## Chartered Enterprise Risk Actuary



エディンバラのロイズ・バンキング・グループのシニア・アクチュアリアル・アナリスト、パメラ・ロバートソン氏

CERA — 新たな興味深い機会へのパスポート

IFoA は 500 人目の CERA を祝福します！この世界的に認知されたリスク管理の資格は記録的な成長を遂げつつあります。

IFoA は、パメラ・ロバートソン氏が権威ある CERA (Chartered Enterprise Risk Actuary) 資格を取得した 500 人目のメンバーとなった旨を報告できることを嬉しく思います。

CGA のロン・ハースミス会長は、この意義深い達成についてロバートソン氏を心から祝福するとともに、グローバルなリスク管理に向けたこの重要なステップを讃えました。「経験豊富な ERM (enterprise risk management) の専門家に対する世界的な需要があります。CERA は、取得可能な ERM の資格のうち最も包括的かつ厳格なもの 1 つです。」

「CERA は、その訓練と経験のゆえに、財務リスク、オペレーショナルリスクおよび戦略リスクを含む、組織の全範囲のリスクを評価し、管理することができます。ロバートソン氏をはじめ、世界の CERA は、厳格な訓練によって、組織のリスクプロファイルについて 360 度の見方を提供する最高の能力を身につけており、ERM に価値を付加します。」

ロバートソン氏はこう述べました。「CERA 資格を付与されることをうれしく思います。エンタープライズリスクのエキスパートとして国際的に認められるのは素晴らしいことです。」

また、今や英国の CERA が 500 人以上に達したことや、この資格の人気や認知度が上昇し続けていることも喜ばしく感じます。」

「ERM は、最初にそれについて読み始めた時から興味を持っていました。今後もっとそれに関わり合いたいと思っています。CERA 資格は、私が企業の ERM プログラムを支援できる専門知識を持っていることを示すものです。」

「さらに、アクチュアリーという専門職やアクチュアリーが働く環境が変化しています。CERA は、現代的で最新の資格として、それらの将来の課題に対処する良い足がかりをもたらします。」

「CERA 資格は、特にキャリアの柔軟性という点でたくさんのドアを私に開けてくれます。世界的に認知された資格であるため、海外に向かう選択肢も開かれています。また、伝統的な保険数理分野から新しい魅力的な他分野の機会に至るまで、就業対象としてさらに多くの分野の選択肢があります。」

「CERA 資格は、一連の試験に合格した後にのみ付与されるため、企業は、どんな CERA を雇用しても、リスクを特定、測定および管理するスキルを有していることに確信を持てます。また、この資格を持つアクチュアリーを雇用することで、保険数理業務に異なる観点と見識がもたらされ、追加的な機会や知見が得られます。」

CERA 資格の取得、あるいは CERA の雇用が企業にもたらす効用に関する詳しい情報については、ウェブサイト [www.ceraglobal.org](http://www.ceraglobal.org) をご覧ください。

## 最後に

### CERA 資格および国際 CERA 協会について

国際 CERA 協会（CGA）は、必要な教育および訓練の要件を充足した個々のアクチュアリーにグローバルな CERA 資格を付与する権限をアクチュアリー組織に認めています。各組織は、当協会が要求する基準を満たしていることを確認するために、最初に当該組織が提案する CERA プログラムについて厳格な審査を受けます。現在、オーストラリア、オーストリア、カナダ、台湾、デンマーク、フランス、ドイツ、インド、イスラエル、イタリア、日本、オランダ、南アフリカ、スウェーデン、スイス、英国および米国の組織が CERA 資格を付与する権限を認められています。

CERA は最初、2007 年（訳注：原文「2009 年」は誤り）に米国アクチュアリー会によって米国で確立されました。2009 年には、特に金融セクターにおいて、高い能力を有するリスク管理の専門家に対するニーズが拡大している状況に対処するために、12 カ国の 14 の全国的なアクチュアリー会が参加してグローバルな CERA 資格を創設しました。

## GIRO 2016 における CERA

3日の間にできるだけ多くの人々を、特別試験を受験し、1日の講習に参加するよう説得する。

不可能に近い任務でしょうか？それは誰に任せるかによります。

教科書を読み、復習ノートを作ると考えただけで冷や汗の出る人もいます。しかし、CGAのスタンドにやってきたGIRO (General Insurance Research Organising Committee) 大会の出席者はその大半が、CERA資格がもたらす大きな機会を理解し、チャレンジ性のある教育を楽しんでいると考えました。

2016年9月末ごろ、国際CERA協会(CGA)は、ダブリンで開催された英国アクチュアリー会(IFoA)の年次GIRO大会で展示スタンドを設けました。純粋な損害保険のイベントに進出するのはこれが初めてでした。損保とエンタープライズリスクマネジメント(ERM)の間には本質的な類似性があるにもかかわらず、損害保険業界におけるCERA資格の浸透は極めて低い状態でした。そのため、CGAは、損保のアクチュアリーの間にはCERA資格への関心があるかどうか、もし関心があるなら、その取得をどんな障壁が妨げている可能性があるのかを突き止めたいと考えました。

大会期間中、スタンドにはひっきりなしに来訪者があり、その多くがCERA資格への興味を示し、その取得を望み、教育プロセスについての説明を求めました。来訪者の多くは現在すでにリスク管理の職務に携わっており、日常業務の一部としてシラバスの諸分野に対応できる可能性があるため、学習プロセスが当初心配していたほど骨の折れるものではないかもしれないと話すと喜びの表情を浮かべました。

また、既存のCERA資格者がスタンドを訪れてくれたのも嬉しいことでした。CERA資格がキャリアに与える影響について詳しく知ることができたからです。すべてのCERA資格者は襟章を付けることができますが、希望があればそれを差上げました。CGAはCERAをすべての実務分野およびより広範な領域に拡大することを目指していることから、これらの参加者から得た知見はCGAの今後のプロモーション活動を方向付けるのに役立つでしょう。

この大会では、CGAの当初資格付与署名者(Award Signatory)の1つである米国損保アクチュアリー会(CAS)からの参加もありました。CASは、IFoAのST9エンタープライズリスクマネジメント試験をCERAへのルートの一つとして使用しており、米国でそのセミナーと類似した独自の催しを提供しています。IFoAのメンバーはCASとの相互協定の特典を利用して、CERAへのルートの一部としてCASのセミナーに出席することができます。

2017年3月30日掲載版

全体として、CGAはこの大会で大きな成功を収めました。今後プロモーションに取り組む際は損保コミュニティを念頭に置くことになるでしょう。この大会でお話することのできた参加者にCERAセミナーでお会いできることを祈っています（たとえその全員でないとしても）。